

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 年 月 日

事業所名 _____

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		広い敷地を使って活動をおこなっている。	
	2	職員の配置数は適切である	○			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		車椅子を使用している児童の受け入れも行っている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		定期的な会議を行っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第3者評価については法人で検討する。
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		権利擁護や事例検討の研修を行っている。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		児童や保護者への聞き取りを行い、支援に反映させている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		PCソフトによる、標準化したアセスメントシートを使用している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		園庭遊び・工作・おやつ作り・DVD鑑賞・散歩・習字など	音楽療法・リトミックなどについて、外部の講師やボランティアの協力を得て、支援の質の向上につなげる。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		月・日の予定を提示している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個別活動と集団活動の時間を分けて予定を立てている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		送迎の対応等も確認を行っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		振り返りを行い、次回利用時の対応等を検討している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		その前後の様子も記録し、その後の支援に繋げている。	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		年2回モニタリングを行っている。		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		資料作成を行い参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		お迎えの予定を各学校に伝えている。	地域の普通学校へのお迎え時の引継ぎ方法などについて、安全面などについて十分に打ち合わせを実施し、協力を求めるよう働きかけが必要。自立支援協議会として要望書を提出予定。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	医療的ケアが必要な児童の利用はない。	看護支援員を配置しているが、短時間勤務の1名体制であるため、医療ケアが必要な子どもの受け入れがしにくい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		児童発達支援事業所との情報共有はしている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		相談支援事業所より聞き取り等あれば、普段の様子や支援の状況などを説明	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		地域の発達障害認証ケアマネージャーかあの助言を受けている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		新型コロナウイルス感染予防の観点から実施し出来ない。	新型コロナウイルス感染症が収束した後のことを想定した活動について検討中。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		地域自立支援協議会の児童部会に所属し、研修会などに参加	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		事業所での様子だけでなく、学校との引継ぎで聞いたことなども伝えてい	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			事業所内相談支援の実施について、保護者向けに広報誌などで伝え、個別に対応する機会を確保できるよう調整する。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		見学時と契約時に伝えている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		相談があれば行っている。	事業所内相談支援の実施について、保護者向けに広報誌などで伝え、個別に対応する機会を確保できるよう調整する。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		これまでは不定期の発行であった。	不定期の発行しかできていなかった。定期発行を行うように改善する。
	35	個人情報に十分注意している	○			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			新型コロナウイルスの感染状況が改善した後の地域住民との交流を目的とした行事・活動について検討する。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○		防犯マニュアルの作成と各取り組みについて保護者への周知を広報誌に載せるようにする。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年2回避難訓練を行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		法人内研修及び、外部研修に参加	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		虐待防止委員会にて身体拘束についての対応を組織的に検討して対応している。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		保護者に事前に聞き取りを行い対応している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		法人内でも共有している。	